

鳥の生活と巣箱

哲 化 人

三〇

小鳥と云ふ子供にとつて大きな注意の對象物を観察させる方法は色々とありませう。

よく、一般の家庭で飼つておられる小鳥類、例へば「十姉妹」、「カナリヤ」、「セキセイインコ」、「紅雀」、等を籠に入れて飼ひ、子供達にその餌を啄む様子、巢を營む有様、母鳥が雛を如何にして育てるか等を観察させ、又親しくその餌や水や菜等を入れさせて小鳥に親しませるのも、いい一つの方法であります。飼鳥は姿も色も美しく、又その聲もいいものですから、子供達にとつては、仲々價值のあるものに相違ありません。

又、いい方法もあります。成程美しい飼鳥と親

しむのは結構でせうが、拘束された籠の中の生活、金網の中の不自然な——いや飼鳥にはもうそれが自然になつてはゐるのでせうが——様子を觀察するより、解放された自由の天地に生活する小鳥の生活を觀察することは更に結構な事とせう。

唯雀が飛んでゐる、小鳥がさへずつてゐると云ふ事より一步小鳥の生活へつき進んだ觀察も出来ませう。これの材料とても得るに難くないと思ひます。春、ひばりが麥畑にさへずるのも郊外に出たら見られませうし、今頃のやうに燕が渡つて來て家の軒等に巢を營み、更に雛が生れてからはその黄色い嘴で親鳥に餌を求めて鳴く有様等も都會地

でも観察出來ませう。雀等の巢も發見され、その生活振りを見る機會もありませうし、更に郊外、田舎の方でしたら種々の小鳥や鳥が巢を營む有様も觀察することが出來ませう。唯この方法は、前の飼鳥より鳥に親しく接近することが出來難いうらみがあります。しかしほんとうに自然に生活する鳥を観ることは、仲々價值のあることと思ひます。

更にここで述べやうとする方法は、鳥類の自然の生活を、親しく近づいて觀ることが出來、鳥の自然の生活に立ち入つて、自然の小鳥と子供とが一緒に仲よくすることの出來る方法です。それは最近段々と盛になつて來てゐる巢箱(Nesting Box)をたててやるのです。

これは、そもそもの起りは獨逸のベルレプシユ博士と云ふ鳥類學者が考へ始めて、自分で試みたのが最初であるようですが、目的は有益な鳥類を

保護してやるのが第一なのです。鳥類も人生にとつて種々な意義を有してゐることは申す迄ありませんが、大體述べて見ますと、田畑の作物を荒す人生に害ある鳥がおります。主として植物性のものを食餌とします。それに對して動物性の食餌をとるもの、即ち昆虫、獸類等を捕食するものがあります。この食肉性のものは害虫や害のある獸類を驅除するので農業を益するものでありますが、都合のいいことには害鳥たる植物性食餌をとるものは肉が美味なため、狩獵鳥が多いのです。自然と害のあるものを捕へるやうになつてゐます。一方、益鳥の保護は法律によつて定めた期間の捕獲を禁じるとか、宗教的、迷信的な言ひ傳へより土地土地によつて保護するとか、色々の方法が行はれてゐるやうです。その保護の一施設として、農業に益するやうに案出されたのがこの巢箱ではあるのですが、これは同時に鳥を愛する心、

鳥と仲よくなる氣持がなくては出来ない事ですし、又その氣持を醸成させる方法であり、幼稚園等で試みられるに至極面白いと思ひます。

自然に生活してゐる鳥を如何にして保護してやるかと云ふ方法は色々とありませうが、大體、鳥に棲息地を與へる方法、鳥に食餌を與へる方法とに區別してお話致しませう。

鳥類の食餌の缺亡する時季は冬季であります。

殊に寒國で雪の積つてゐる土地等では甚だしく缺亡し、往々にして餓死すると云ふ事です。そのために雪國では給餌の必要があります、その方法は種々ありますし、種々の給餌器も考案されてゐますが、最も簡單なのは降雪によつて、鳥類の餌の雪に埋れて、自然のまゝでは餌に窮する時、降雪を除いて地表をむき出してやりその上に餌を散布してやる方法です。その外林の木々の枝に餌入れを吊してやつたり、幹の洞や窪みに餌を入れてや

る方法もあります。その外、もつと大掛りには特別に小屋を立ててやり屋根で雪が降つても雪で埋らぬ小さい地面をつくり、その下に餌入れを置いてやりますと、屋根は又冬季の巢ともなります。餌の種類は穀物等も結構ですが、冬季は脂肪の要求の多い時ですし、肉食のものが目的ですから、脂肪を與へることは大切です。大きな筋肉を木の枝に縛り付けただけでも結構です。唯、肉がひきづり出されないやうに嚴重に結び付けて置く必要はあります。又簡単な給餌箱をつくるのもいいと思ひます。この箱の作り方等は後に巢箱と一緒に述べませう。

その外夏季には、餌には窮さなくとも水に困る事が多いのです。よく日照りつゞきで小鳥の斃死することがありますが、小鳥には水は重要な役目をします。唯水をのみのみならず、水浴と云ふことは生活に缺かすことの出来ない事なのです。飼

つてある小鳥が水入れの中で、又は雀等が雨後の水溜りの中で行水をつかつてゐる所は幼児のよく注意する光景ですが、その水を給する設備も種々考案されてゐます。しかしコンクリートで小さい池を作るなどは大變ですから桶でも鉢でもに水を入れて小鳥のよく遊ぶ所に置いてやればそれでも結構です。要するに水溜りを造つてやればよいのですが、場所が問題です。前の給餌の場所も同様ですが小鳥が餌をとつてゐる間、又は水浴してゐる間に害敵の襲撃を受けるやうな場所ではいけません。即ち藪等があつて小鳥の見透しの利かぬ場所等は禁物です。外敵としては、蛇、猫、いたち等がありますが此等に對して相當の考慮を要します。つまり小鳥が平然と自由に餌を食へ水の飲める場所がいいのです。平常よく小鳥の遊んでゐる場所を考へて設置してやれば大抵成功してゐます。

次に巢箱ですが、これは鳥類のうち樹の幹の洞とか根の空洞等に巢をつくるもののために作られるものでその外の露出した巢を營む鳥類には別の方法があります。

要するに巢箱は鳥が安住するに足ればいゝわけですが、その大いさ、設置の場所を誤る時は、鳥類によつて利用されないでしまふことがあります。

巢箱も目的にさへ適へば、その形状等は各自獨創的の考案が出来ますから、幼児にある程度まで創案させて、それを補助するやうにしたら面白いものが出来はしないでせうか。しかし必ず備へなければならぬ條件がありますから、それを述べて、作り方の例を多少述べて見ませう。

第一に必要なのは箱の大いさ、穴の大いさ等です。ある大きさの鳥はそれに適當した大いさの穴を備へてゐる巢箱にしか營巢しません。従つて、

巣箱の大きさを適當にすることによつてその鳥の種類を限定することが出來ます。次に大體鳥の大きさとの關係を記してみます。

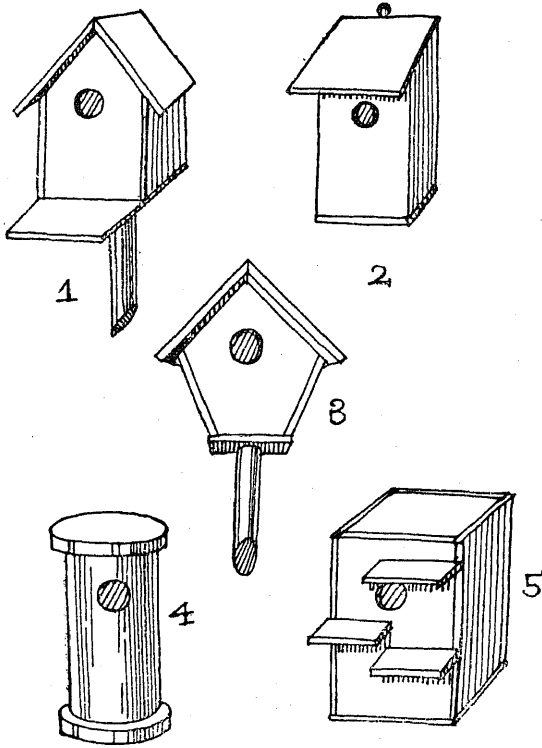
(生物學叢書内田氏著
鳥獸保護による。)

鳥の種類	巣箱の底の大きさ	巣箱の高さ	底から巢穴の中心までの高さ	巢穴の直徑
「おほりり」大の鳥	三三・五 × 三三・五	二〇	一五	二・八
「しじふから」大の鳥	一〇 × 一〇	二〇—二五	一五—二〇	二・八
「みそきざし」大の鳥	一〇 × 一〇	一五—二〇	二五—二五	二・〇
「すずめ」大の鳥	二二 × 二二	二四—二〇	一五—二〇	三・〇
「むくどり」大の鳥	一五 × 一五	四〇—四五	三五—四〇	五・〇
「あをげら」大の鳥	一七・五 × 一七・五	四〇—四五	三五—四五	六・〇
「ふくるふ」大の鳥	二五 × 四五	三七—四五	一〇	一五・〇
「このりたか」大の鳥	二〇 × 二〇	二〇—二七・五	二七—二〇	七・五
「をしどり」	二五 × 四五	二五—三七・五	七・五	一五・〇

單位はすべて厘

次に必要なことは、設置の場所と時季ですが之は後にまとめて述べるとして、いよいよ、その大きさで造るとして材料は如何なるものでいいかと云ふことです。材料はなるべく廢物利用をおすすめしたいと思ひます、色々な意味で廢物利用が望ましいのです。有り合せの蜜柑箱を改造しても出來ますし、小さい樽、桶の類でも穴をあければいいのですし、空罐、竹の一節等でも作れます。新しい材料ですのなら丸太か六分板がいいと思ひます。それも丸太も皮付きのままなら一層よろしく、板も皮付きのままの方が雅趣あつて結構です。木は一概に新しいものより古くなつて木の香の失せたやうなものの方がよろしい。手の入つてない、そして古いものの方がいいのですから、廢物を用ひられれば一番いいわけです。六分板の代りに四分板でもよろしく、板はすべて鉋のかしらぬぎらぎらの方がいいのです。

その材料を用ひてどう云ふ型に作るかは、寸法だけが定まつた通りにせねばならないが、全く自由で獨創的なものを造り得るのです。小鳥のお家



第一圖 (眞箱の實例)

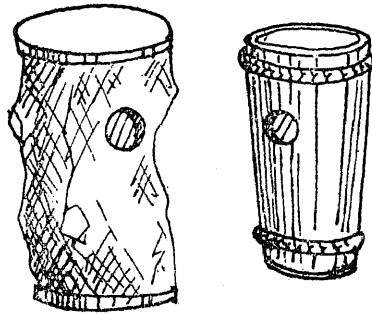
如何ですか、參考までに拙作二三を添へました。(第一圖參照) 5は蜜柑箱を二つに切つて造つたものです、4は丸太を利用したもので、丸太を縦に二つに割り、中からノミでえぐつて中空にしたもの、一方へ巢穴を

明けて、合せてから屋根と底に圓盤狀の板をうち付けたものです、多少造り難いと思ひます。3・2・1はいづれも容易でせう、六分板の一尺巾のものが四尺位あつたらば雀大の巢箱でしたら二つ出来ませす。例へ板を買つたとしても、二三十錢で二個作れますし、廢物の板屑や、箱等を利用して各自考察されたなら面白いものが出来ませ

を如何に設計するか、これはある程度の助力が必要かも知れませんが、幼兒にプランを作らせては

う。日本鳥學會(東京帝大理學部動物學教室内)からも、庭等に置く結構な巢箱が發賣されてゐま

右 樽を利用した巢箱
左 材木の幹で作った巢箱



第二圖

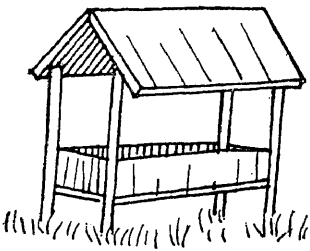
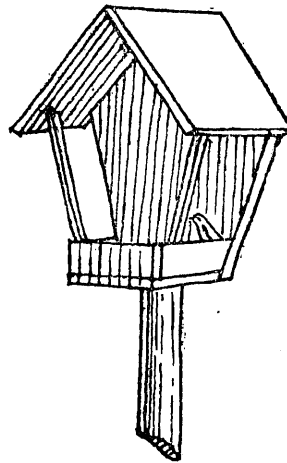
すが、自分で造るのならその箱を造ることだけでも面白い事
でせう。

巢箱が出来たら序
に給餌箱も作つてや
りたいです。大體屋
根でも作つてその下
に入れものを置けば
いいのですが、第三

圖のやうなものも面白いでせう。これも廢物利用
で作られたので結構です。鳥のよく飛んで來さう
な所へ、穀物でも入れてやつて立て、おくと小鳥
が時々啄みに來ます。

さて製作が終つたら設置ですがこの場所は充分
考慮を要します。害敵に對し安全なることは餘程
注意しなくてはなりません。それがため立木に直

接に取付けるより別に丸太なり木なりを立て、そ
れに付けるやうにした方が安全です。蛇の害、都
會地では猫の害が氣を付けなくてはなりません。
巢孔の方向は割合と風がよく吹く方向を避けた方



第三圖 給餌箱

がい、やうです。日光の強く射し込む方向も好ましくありません。高さはその附近の地勢や鳥の種類で色々適当な高さがありますが一間から二間位の間です。従つて立木に取り付けた方が、長い柱を立てるよりも便利ですから害敵のことを考へてやつて立木に取付けることになつてしまひます。

取付けの時は秋の終りが一番よい時季です。冬になると巢を營む場所を探してゐますからその時季に設置してやれば翌春の産卵蕃殖の時季にその巢箱で雛を育てます。ですから今頃から造つて置かれて、箱の木を充分枯して置いて、秋になつて設置されると、冬になつて鳥が入り春の雛の育つ有様がよく観察出来ると云ふわけです。しかし設置したからとてさうすぐには入るものではありません。

この巢箱は目的は洞に營巢する鳥に巢を興へて

やるのですが、露出して營巢する鳥の保護のためには、森林の樹木を適當に剪定して、之に巢をかけやすいやうな枝を出してやるのです。即ち幹の一個所から一せいに枝が出て、鳥の巢のやうになるやうにしてやるのです。保護の目的には有効の方法ですが、一寸やつて見るのが難しいですから簡單にしておきます。

巢箱を自分で製作し、それを思ひ思ひの場所に取付けて、しばらくして巢を營んだ小鳥を見るときは子供達は自然と小鳥に益々親しむこととせう。小鳥と見れば空氣銃を持ち出して來たり、バチンコでねらつたり、石で落したりする子供もよく見懸けるやうですが、それが今度は餌をやり水をやつて營巢の有様を見、又親が雛を如何にして育てるかの有様を見たら、何か大きな變化が子供の氣持に起りはしないのでせうか。

既に外國では、小學校に於て盛に愛鳥の精神を

尊重して、鳥の^{バード・デー}日を設け、兒童に巢箱を製作させ、それを設置して鳥と親しませる事が盛に行はれ、又吾國でも小學校で段々と巢箱製作をやらせて、鳥と親しませる事が行はれ出したやうです。

幼稚園の庭に小鳥を呼んで幼兒にその生活を觀察をさせる方法として、その製作が既に獨創的であり、その小鳥との接觸が更に意義あるものならば、巢箱の設置は何と愉快な結果をもたらすものではありませんか。都會地の幼稚園では、種類の變つた鳥は巢箱に來得ない事はありますが、雀でも結構です。雀などを保護するのは巢箱本來の目的に背いてゐるかも知れませんが、こゝにおすゝめする巢箱の第二次的な目的を考へれば構まはな^いわけ^でせう。比較的多勢集合する機會の多い學校、幼稚園に安靜な小鳥の棲家を置くには多少の考案が必要でせう。しかし、その設置の場所に適當の所を得たならば必ず巢を營むやうになりませ

う。

又、たとへ巢は營み難くても、給餌器には必ず、いつでも鳥は止つてゐます。自然の小鳥に餌をやる、水をやると云ふだけでも子供にとつて愉快なこと^でせう。ですから給餌箱は巢箱と同時に必ず置いてみて下されば、たとへ巢箱へ入る時期が後^れても、餌を啄む所で興ずる事は出來ませう。

既に試みられて、いい成績を擧げられておられる所もありませうが、たとへ環境が都會地でも是非一度試みられんことをお奨め致します。(完)

御不審の點あれば、及ばず乍らお答へ致します。編輯部へ御照會下さい。

× × ×

× × × ×